

◇二〇一九年度中国文化学会大会

二〇一九年六月二十九日(土) 於筑波大学

〔研究発表〕

一、諸橋轍次と新文化運動 浙江大学 周 妍 氏

一、台湾民主国總統唐景崧の思想―清国人意識と清国台湾統一思想― 元臺灣中華科技大學 伊藤 幹彦 氏

一、謝国楨謄写本「双鑑楼主人補記莫氏知見伝本書目」初考 浙江大学 王 連旺 氏

一、盧照鄰「五非文」〔釋疾文〕考

茨城工業高等専門学校 加藤 文彬 氏

一、杜詩試論―夔州期における「比興」の意義―

文教大学 樋口 泰裕 氏

一、「侃按」から見た論語義疏の構造

東京外国語大学名誉教授 高橋 均 氏

〔シンポジウム〕

高等学校における漢文教育を考える―学習指導要領改訂を視野に入れながら―

基調講演 千葉大学名誉教授 首藤 久義 氏

パネリスト 桐朋高等学校 渡辺 淳美 氏

パネリスト 長野県上田高等学校 清水 庸 氏
パネリスト

さいたま市立大宮北高等学校 加藤 和江 氏
司会 大妻女子大学教授 増野 弘幸 氏

〔総会〕

一、開会の辞

二、議長選出

三、会長挨拶

四、諸報告

(1) 総務委員会

(2) 企画委員会

(3) 編集委員会

(4) 会計委員会

(5) 広報委員会

五、議事

(1) 二〇一八年度決算

(2) 二〇一九年度予算

六、会長選挙

七、理事選挙

八、閉会の辞

小松建男副会長

樋口靖会員を議長に選出

加藤 敏会長

樋口泰裕委員

増野弘幸委員

内山直樹委員

渡邊 大委員

菅野智明委員

渡邊 大委員

渡邊 大委員

高橋未来委員

高橋未来委員

白井啓介副会長

◇例会

二〇一九年九月二十一日（土） 於筑波大学東京キャンパス

一、昭和初期における菊池惺堂の収蔵ネットワーク

—大橋廉堂先生入蜀画会を中心として—

相模女子大学 下田 章平 氏

〈古典籍展示（高橋均会員蔵）〉

中国関連古書店古書目録

二〇一九年十二月十四日（土） 於大妻女子大学

一、忘れ去られた鎮魂説話—劉敬叔「異苑」—

元山形大学 高橋 稔 氏

〈古典籍展示（高橋均会員蔵）〉

日本名家『経史論存』十五卷十五冊、関義臣編纂、明治

戊寅（十一年、一八七八）序、何如璋・張斯桂・黄

遵憲・王治本他〔標点〕、副島種臣・何如璋・中村正

直・張斯桂〔序〕、明治三六（一九〇五）年七月博文

館発行

二〇二〇年三月九日（土） 於大妻女子大学

一、重野安繹の漢文教材

大妻女子大非常勤講師 木村 淳 氏

〈古典籍展示（高橋均会員蔵）〉

影印本論語三種

① 宋本論語注疏十卷十冊（宮内庁書陵部蔵本・昭和五年

洪沢栄一跋）

② 正平版論語集解十卷五冊 附正平版論語集解考一冊

（大阪府立図書館蔵・正平版論語刊行会・昭和八年刊）

③ 建武四年鈔本論語十卷十冊 附解説一冊（古梓堂文庫

蔵・京都大学図書館寄託・昭和十四年刊）

◇二〇一九・二〇二〇年度役員

会 長 小松建男

副会長 阿川修三

理 事

相原茂、安藤信廣、井川義次、薄井俊二、大上正美、

大橋賢一、大村和人、加藤章、加藤敏 後藤秋正、

櫻田芳樹、白井啓介 高橋明郎、高橋由利子、

細谷美代子、三上英司、村田和弘、鷺野正明、

渡辺雅之、渡邊義浩

理事・委員（兼任）

総務委員 樋口泰裕（常務理事）、北島大悟

企画委員 増野弘幸（常務理事）、加固理一郎、谷口匡、

玉城要、松村茂樹

編集委員

内山直樹（常務理事）、阿川修三、河内利治、

木村淳、坂口三樹、蔣垂東、谷口真由実、

寺門日出男

広報委員

菅野智明（常務理事）、尾川明穂、高橋佑太

会計委員

渡邊大（常務理事）

会計監査 舟部淑子、山田忠司

幹事

荒川悠、宇賀神秀一、村越充朗

※住所・勤務先等に変更のあった方は、事務局宛御一報下さい。

中国化学会 info@zhongguowenhuaixuehui.org

（〒三〇五―八五七一 茨城県つくば市天王台一―一―一）

筑波大学 人文社会科学研究所 文芸・言語専攻内）

「中国文化」投稿規定

〈応募資格など〉

- 1 中国文学会会員に限る。
- 2 応募原稿は、未公開のものに限る。ただし、口頭で発表しこれを初めて論文にまとめたものは受理する。

〈原稿枚数など〉

- 3 原稿は校正時に加筆を要しない完全原稿とする。
- 4 原稿枚数は、本文・注（原稿用紙1マスに1字を収める。）・図版などをあわせて、下記の枚数を厳守する。
 - (1) 論文：400字詰め35枚以内。（ワープロ使用の場合、縦書きは26字×21行で26枚以内とし、横書きは35字×33行で12枚以内とする。）
 - (2) 研究ノート：400字詰め25枚以内。（ワープロ使用の場合、縦書きは26字×21行で19枚以内とし、横書きは35字×33行で9枚以内とする。）
- 5 図版を必要とする場合、占有面積半ページ分を550字として換算する。図版原稿はそのまま版下として使用できる鮮明なものとし、掲載希望の縦・横の寸法を明示する。表についても、掲載希望の縦・横の寸法を明示する。

〈体裁・表記など〉

- 6 原稿は縦書き・横書きのいずれでもよい。
- 7 原稿は常用漢字を原則とする。正漢字・簡体字などを用いる場合は下記に注意する。
 - (1) 引用文など必要箇所を正漢字で表記する場合は、原稿提出時において表記が完成されていること。（正漢字箇所を必ずマーカーなどでマークすること。）
 - (2) 引用文など必要箇所を簡体字で表記する場合も(1)に同じ。
 - (3) とくにワープロ原稿の場合、上記の点に留意すること。引用部分が手書きになっても差し支えない。
- 8 中国語のローマ字表記は、漢語拼音方案による。但し、特殊な綴りで通用している固有名詞や、本人が自分の名前に使用している綴りについては、その使用も認める。また、日本語のローマ字表記は、ヘボン式の使用を原則とする。

〈原稿提出〉

- 9
 - (1) 締切日：2月末日（厳守すること）
 - (2) 提出先：別途定める編集事務局宛
 - (3) 原稿は必ず書留により上記に郵送するものとし、2月末日までの消印のあるものを有効とする。
 - (4) 応募時に、原稿以外に複写コピー2部を用意し、合わせて計3部を提出する。（事故に備え、提出前にあらかじめ自家用のコピーを必ず作成しておくこと。）

〈審査〉

- 10 採否については、編集委員会が委嘱した査読委員の報告を受けて、編集委員会で決定し、4月上旬までに連絡する。

〈抜刷ほか〉

- 11 論文掲載者には、掲載誌3部および抜刷30部を贈呈する。

〈掲載論文等のインターネット公開〉

- 12 掲載論文等の著作権のうち、複製権および公衆送信権は中国文学会が所有し、執筆者の許諾のもとに、刊行後1年を経てインターネット上で公開する。